

異常気象と乾燥の注意点情報



No.2_1

今年の東日本は低温と日照不足が続いています。今後の天候によっては開えい籾による立毛胴割れや、籾の熟度差が大きくなる可能性が有り、胴割の重度化や水分管理の難しさが予想されます。



異常気象による傾向と対策

1:水管理と刈取適期について

- (1) 日照不足のため登熟が遅延しています。米の品質向上のため、**出穂後20～30日間の灌水管理**を行い**積算温度と積算日照量を考慮して適期刈取**を行いましょう。
- (2) 収穫前の早期落水は、米の充実度と品質、食味に大きく影響します。ほ場透水性によりますが、**収穫7日前後頃まで間断灌水**を行い凋落を防ぎましょう。
- (3) 台風等で**フェーン現象**が心配されるときは深水管理しましょう。
- (4) 天候不順の時は、**葉色と籾の登熟が異なる場合**が有ります、圃場で生育をよく観察し刈取日を決めましょう。

2:開えい籾(籾われ)にご注意

- (1) 出穂後の生育不良から天候が回復すると**開えい籾**が発生する事が有ります。
- (2) 開えい籾は、ほ場での立毛胴割れや乾燥による重度化が心配されます。通常より**低温乾燥**を行ってください。

↓開えい籾



乾燥の注意点

1:ゆっくり乾燥(温度低め)

- (1) **温度を下げてゆっくり乾燥**すると籾にやさしく、胴割れを防止すると共に枝梗(しこう)や芒(のぎ)が取れ、乾燥効率も上がります。
- (2) 機種により、「ゆっくり乾燥」「温度指定の低め」が選択出来ます。又は、穀物量ダイヤルを低くすると温度が下がり、ゆっくり乾燥します。低いほど良いのですが、目安は標準より5℃前後低めとします。

2:水分のバラツキにご注意(誤差解消)

- (1) 登熟期の長期化により水分のバラツキが懸念されます。**調質乾燥(休止乾燥・二段乾燥)**を行い水分のバラツキを収束しましょう。
- (2) 水分設定は**1～2%高めに止めて**、こまめに手動水分計で測定しましょう。青未熟粒や不稔籾の混入率に応じて水分値を設定しましょう。

100粒中青米5粒以下



乾燥後0.5～1%**乾きやすい**

100粒中青米6～10粒



乾燥後0～0.5%**乾きやすい**

100粒中青米11粒以上



乾燥後0～0.5%**戻りやすい**

異常気象と乾燥の注意点 情報



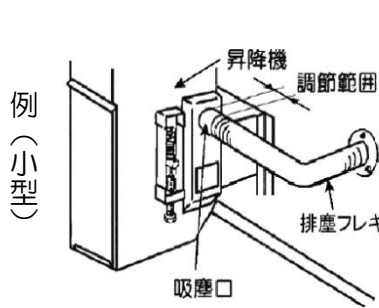
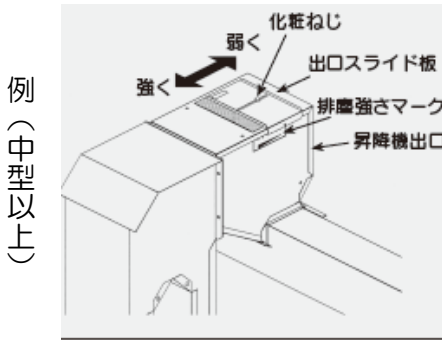
乾燥調製実務編



8月に入り、全国的に日照不足となっております。出穂後の低温、日照不足は窒素吸収量の低下による穂数不足や籾数の減少、登熟の遅延等が予想されます。又、今後の天候によっては、開えい籾による立毛胴割れや、籾の熟度差による乾燥調製の難しさが予想されます。

1. 乾燥初期の注意点

注意点: 籾の充実度が低く「整粒」、「その他未熟粒」が排塵機より飛散する可能性が有ります
対策: 初回乾燥中に排塵機の風量調整を行います（機種毎に方法が異なります）



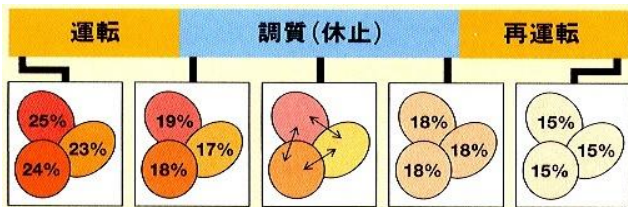
—ご注意—

乾燥初期と中期に、籾がゴミに混入していないか、確認してください。
 高所作業となりますのでヘルメット、安全帯の着用をお願いします。
 詳しくは取扱説明書をご覧ください。

2. 乾燥の注意点

①水分のバラツキにご注意

調質(休止)乾燥を行う事で、水分のバラツキを少なくすると共に、胴割れの防止にも効果が有ります。

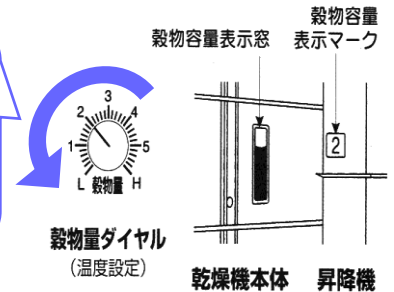


※調質（休止・二段）乾燥とは、18～19%の水分まで通常の乾燥を行い、その後、完全休止（5時間以上が理想）する事で水分のムラを少なくすると共に、穀温を下げ胴割れの予防もを行います。

②胴割れにご注意

熱風温度を下げゆっくりと乾燥する事で胴割れの増加、重度化を抑え、高品質なお米に仕上がります。

弊社乾燥機では穀物ダイヤルの1目盛りが1℃となり「2」→「1」に下げると約5℃乾燥温度が下がりゆっくり乾燥します



乾燥速度設定画面



弊社最新「ウインディネックス」乾燥機の場合は乾燥速度の設定を「ふっつう」→「ゆっくり」に変更していただくと、ゆっくり乾燥します